



次なる
茨木へ。



茨木市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

説明資料 1

茨木市 都市整備部 都市政策課

東西軸の取組み

茨木市景観審議会

令和5年2月21日

(目次)

1 令和4年度の取組み

- ① 社会実験の実施
- ② ストリートデザインガイドラインの検討

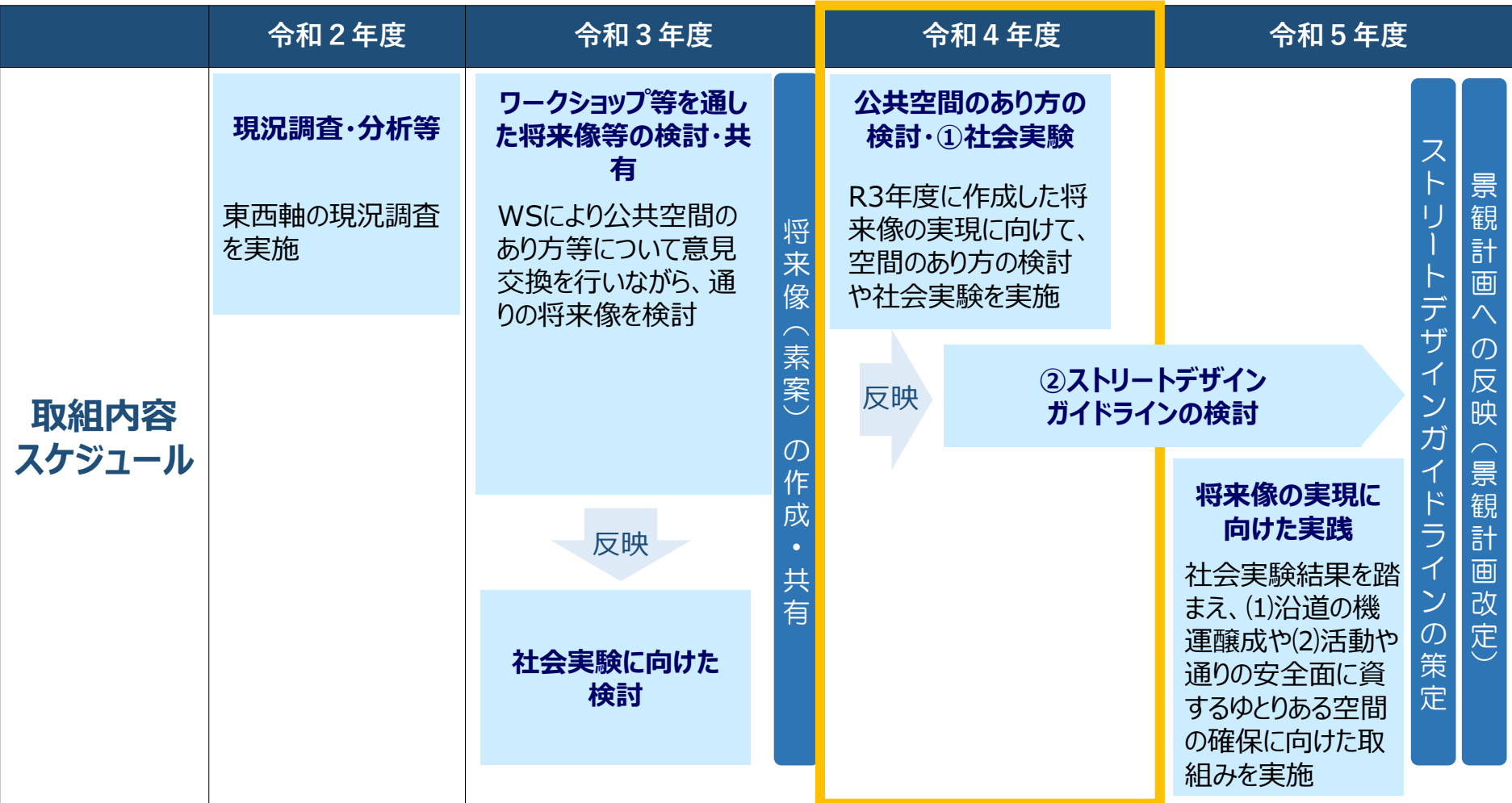
2 今後の取組み

1 令和4年度の取組み

① 社会実験の実施

取組みスケジュール

■ 令和4年度は社会実験で公共空間のあり方等の検証を行い、令和5年度策定のストリートデザインガイドラインの検討を行う。



社会実験の目的と実施概要

- メインストリートの空間のあり方等を検証するため、社会実験を実施した。

[目的]

(1) 通りとしての将来像の可視化

ワークショップ等にて検討してきた将来像を可視化し、空間のあり方等について、検証する。

(2) 沿道事業者等の機運醸成

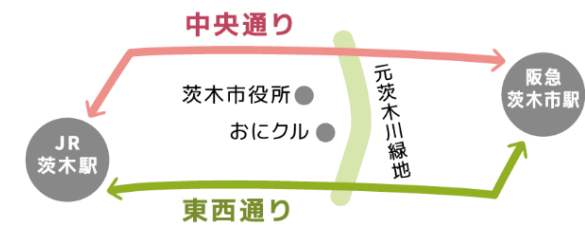
魅力的な沿道空間を持続的に進めるため、将来像の可視化等を通して、沿道事業者等との関わりについて、検証する。

(3) 歩行者・自転車の通行の啓発

歩行空間での自転車との錯綜など、安全面の向上が課題であるため、自転車の適正な通行を促すサインを設置し、啓発を行う。

■ 実施概要

- ・日程：2022年11月3日（木・祝）～11月30日（水）
- ・主催：茨木市、趣旨に賛同する沿道事業者
- ・会場：中央通り、東西通りにおける各所
- ・周知：広報誌・SNS（Facebook、Twitter、いばライブ）
沿道事業者等へのチラシの配布
JR・阪急駅での看板、デジタルサイネージ、チラシ、ポスターの設置
市役所でのチラシ・ポスターの設置
市民活動団体・報道への情報提供 など



社会実験案内チラシ



デジタルサイネージ（JR茨木駅）

社会実験の内容

中央通り [デザインコンセプト] 賑わいと交流を育む親しみやすいみちへ

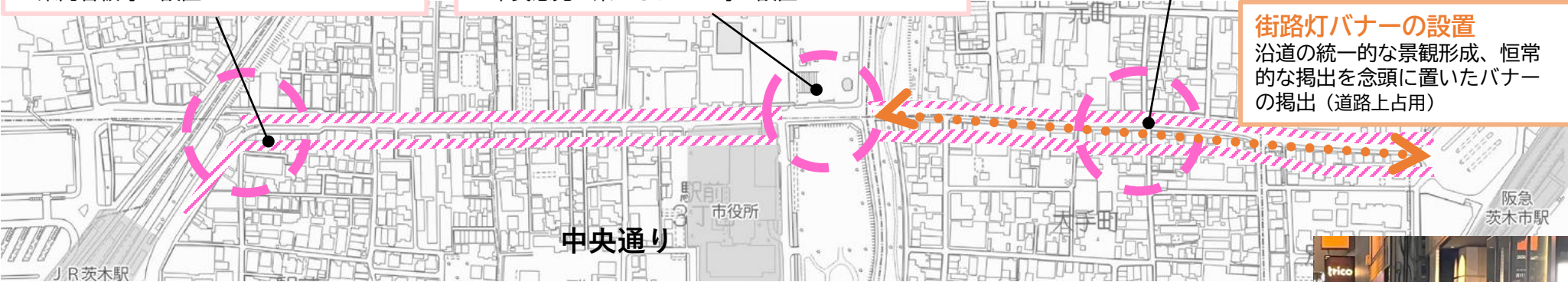
各所に交通啓発看板を設置



① JR駅前商店街
 沿道の飲食店のしみだしによる通りの賑わいを演出 (道路上占用)
 ■ テーブル・椅子、プランター、社会実験案内看板等の設置

② おにクル北
 歩道拡幅後をイメージした、人が行きかう広がりある道路空間活用の将来形を演出 (公園敷地内)
 ■ ウッドデッキ・植栽の設置
 ■ 市民意見を集めるブース等の設置

③ 茨木心斎橋商店街入口前
 商店街との接点で情報発信等を行い回遊を促進 (道路上占用)
 ■ 地域情報案内看板の設置



街路灯バナーの設置
 沿道の統一した景観形成、恒常的な掲出を念頭に置いたバナーの掲出 (道路上占用)

■ 事業者との連携(49件協力)
 沿道事業者と協働し店舗が連なり、賑わい・交流を生み出す仕掛けづくり (民有地内)
 ■ A型看板・プランターの設置
 ■ ポップアップフラッグの設置
 ■ 軒先ベンチの設置





④東駅前公園

休憩空間の充実を図り、沿道敷地を活用した滞在空間を創出
(公園敷地内)

- 公園内でのウッドデッキ・植栽、社会実験案内看板の設置
- イベント等による利活用

⑤おにクル南

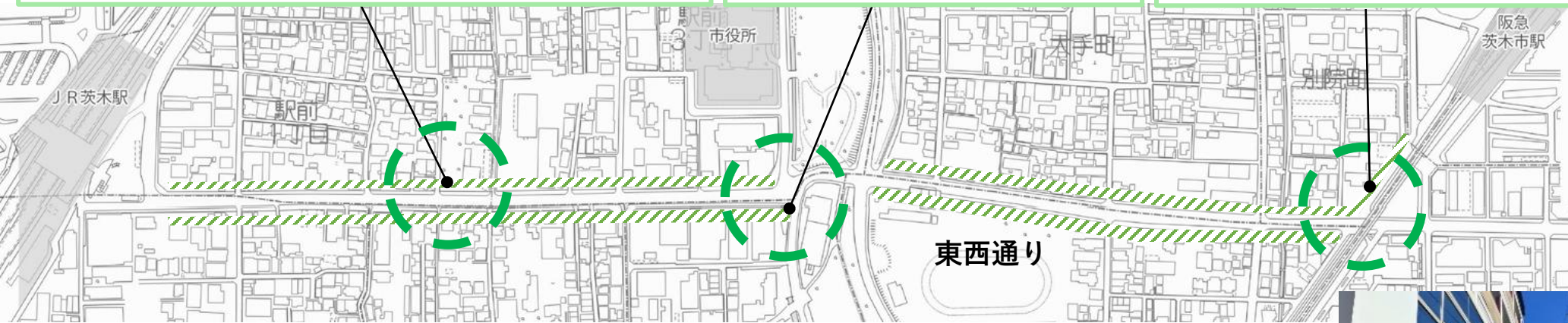
ベンチ等による休憩空間を創出
(道路上占用)

- ベンチ、交通啓発看板、社会実験案内看板の設置

⑥阪急茨木市駅南

歩道拡幅後をイメージした緑豊かな滞在空間を創出
(道路上占用)

- ウッドデッキ・植栽の設置
- 社会実験案内看板等の設置



■事業者との連携 (33件協力)

沿道事業者と協働し緑が連なり、落ち着いて楽しめる仕掛けづくり (民有地内)

- ストリートプラント (背の高い植栽) の設置
- ポップアップフラッグの設置
- 軒先ベンチの設置



ストリートプラント



ストリートプラント



軒先ベンチ



ポップアップフラッグ

(3)社会実験箇所の利活用促進

東駅前公園内に子どもが遊べる遊具の設置や
カフェを出店。また、各社会実験箇所の植栽を眺め、親しんでも
らえるよう、植栽名プレートを設置

- 利活用者の増加やアクティビティの幅を広げることに繋がった。



カフェ出店時の様子



植栽名プレートを設置

(4)学生の参画

まちの将来を担う若年層からの意見収集と学生の知識向上や取
組みへの理解促進を図るため、各種連携を実施

- 大阪大学学生：まち歩き、意見の収集
- 立命館大学学生：市からの説明を踏まえた、研究発表
- 茨木高校学生：社会実験の体験



大阪大学：まち歩きの様子

3都市での比較から滞留空間の居心地の良さに差が見られないため、「歩きやすい」環境整備によって、歩行者を滞留空間へ促すことが求められる。
⇒「歩きたくなる」環境整備より「歩きやすい」環境整備を行うべきである。

広報と注意喚起

歩行者向け

・様々な場所に案内を増やし、目的地までの距離と方向が分かるようにする。

自転車向け

・自転車が歩道を通行しないように注意喚起を行う。
(快適な通行ができるような通行帯を作る)

滞留空間の改善

・滞留場所自体の数を増やす。
・日よけや雨よけを設置し、天候に関係なく利用することができるようにする。
・ベンチの数を増やし、滞留空間の利用者を増やす。

現在のIBALAB広場一
部ではないため、
利用者はいなかった
(撮影:8月17日)



立命館大学：学生からの提案抜粋

(5)振り返り会の実施

おにクルのオープンなども控える中、みちからまちを動かしていく、連携していくことを目的に、
社会実験の結果を沿道事業者等と共有し、沿道の活性化やまちづくりについて意見交換を実施。

実施日：令和5年1月15日

社会実験
結果報告

レクチャー
(生田謙一郎氏)

意見交換
(クロストーク)



社会実験の調査結果

■ 各種調査などから、公共空間のあり方等の検証を実施



① 来訪者 アンケート調査
回答数 142

- 将来像や将来イメージの印象、行政や沿道への期待、社会実験に関する意見などを調査
- 社会実験期間中実施。広報誌、HP、SNSのほか、チラシや実施箇所の看板・ベンチなどにQR掲載し、回答依頼



② 沿道事業者 アンケート調査
回答数 25
(運営協力側)

- ①利用者アンケートの項目に加えて、今後の取組み意向などを調査
- 協力事業者に依頼



④ 利用状況調査

- 利用状況を調査



③ モニター調査
意見数 60

- オープンイベントに合わせて、社会実験に対する意見や通りのあり方などを調査



⑤ 通行状況調査

- 啓発看板設置による自転車、歩行者の通行状況を調査



公共空間のあり方等を検証

社会実験の調査結果

[社会実験の目的 1]
通りとしての将来像の可視化

■ 将来像の共有について

- 通りの将来像を可視化することができ、将来像や将来イメージについて概ね賛同を得ることができた。

メインストリートのコンセプト： 来訪者の8割、沿道事業者の7割が共感
両通りの将来イメージ： 来訪者・沿道事業者ともに8割以上の方が共感

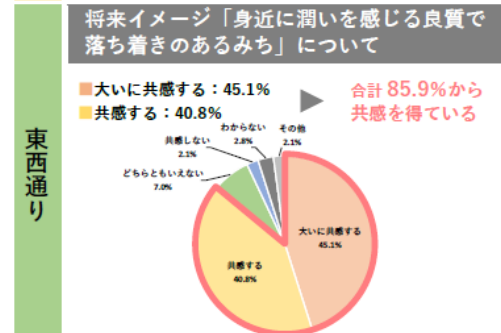
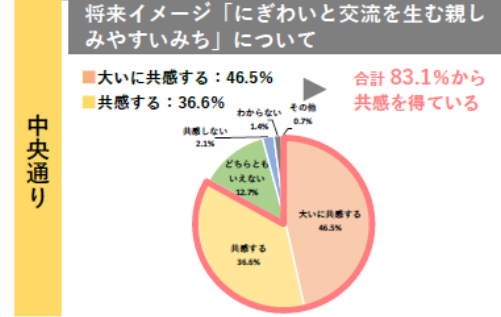
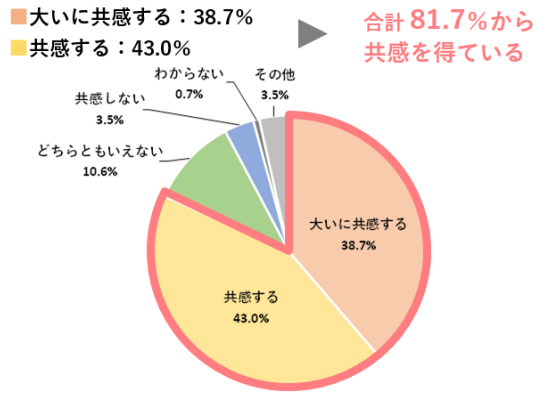
メインストリートのコンセプトについて、市民や沿道のみなさんとのワークショップを重ね、下記のように案をまとめていますが、あなたはどのように思われますか？

めざすべき将来コンセプト

人が主役になり、まちの魅力を“次ぐ”2つのメインストリート
市役所、新施設・広場などがある中心部と周縁をつなぐメインストリートとして、目的地へ向かう期待感や魅力的な雰囲気演出する空間をデザインし、ストリートの魅力をまち全体に広げていく。

めざすべき将来像に基づくストリートイメージ

- ① 人と人との“ワン・コミュニケーション”を楽しめるストリート **点** スポットづくり
滞在空間
気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先やゆっくり滞在できる空間で、ささやかなコミュニケーションが自然と生まれ、通りを行き来する人のゆとりや豊かさを感じることでできるストリート
- ② 沿道の賑わいや季節を感じ、“ワクワク”が高まる歩きたくなるストリート **線**
通り全体での魅力的な空間づくり
自然や季節、お店の賑わいなどを感じながら、新施設などの目的地に向けて気分が高まるストリート
- ③ まちなかの個性がつながり、“ふらっと”歩き回りたくなるストリート **面**
通りからまち全体へ
周辺の商店街や施設、東西軸と交差する路地など、まちなかの多様な個性がつながり、歩き回りたくなる起点となるストリート
- ④ ゆったり並んで、安心・安全に歩きやすいストリート **安心・安全**
2人並んで歩いたり、子どもからお年寄りまで車や自転車を気にせず、安心して歩ける安全なストリート



<来訪者アンケートより>

- 滞留空間の創出や沿道の演出、沿道事業者の協力についても、好意的に受け止める結果が多い。

滞留空間の創出： 7割以上が好意的
沿道の演出(バナー、植栽、看板等)： 6割以上が好意的
沿道事業者の協力： 8割以上が好意的

➡ メインストリートの目指すべき方向性を確認、共有することができた。

社会実験の調査結果

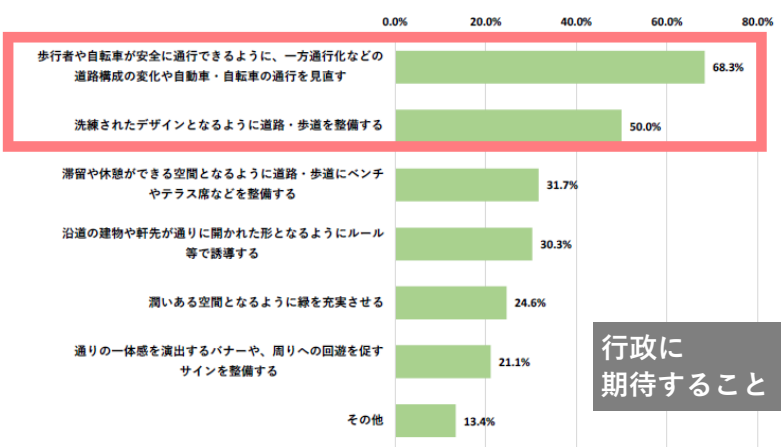
[社会実験の目的 1]
通りとしての将来像の可視化

■ 公共空間のあり方について

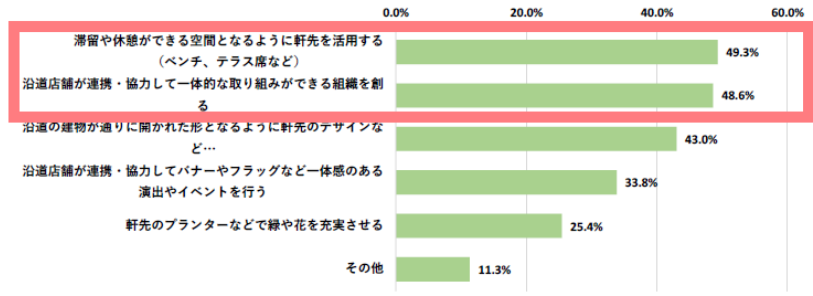
- 行政に望むものとして、
 - ① 通行の安全面に関する課題解決に向けた取り組み
 - ② 洗練された道路空間デザインの検討・整備 が挙げられた。
- 沿道・民間事業者に期待するものとして、
 - ① 滞留や休憩ができる空間となるように軒先を活用
 - ② 沿道事業者が連携・協力して一体的な取り組みができる組織づくり が挙げられた。

茨木のメインストリートとしてふさわしい、より良い道路・歩道にしていくために（複数回答）

- 歩行者や自転車が安全に通行できるように、一方通行化などの道路構成の変化や自動車・自転車の通行を見直す：68.3%
- 洗練されたデザインとなるように道路・歩道を整備：50.0%
- 滞留や休憩ができる空間となるように軒先を活用する（ベンチ、テラス席など）：49.3%
- 沿道店舗が連携・協力して一体的な取り組みができる組織を創る：48.6%



行政に期待すること



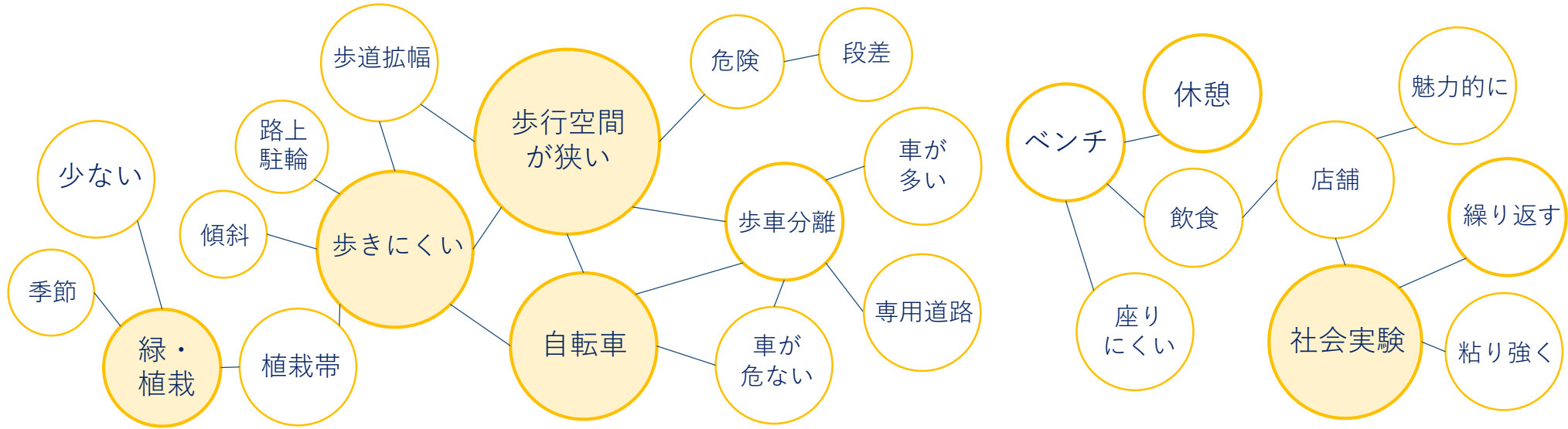
沿道・民間事業者に期待すること

<来訪者アンケートより>

社会実験の調査結果

[社会実験の目的 1]
通りとしての将来像の可視化

- その他 社会実験に対する意見として、
①通行の安全面に関する課題解決、②緑量の増加、③社会実験の継続を求め
るご意見などを頂いた。



※アンケート自由記入を共起ネットワークで整理

➡ 魅力的な景観形成には、安全に「歩きやすい」環境の検討も重要な要素

社会実験の調査結果

[社会実験の目的 1]
通りとしての将来像の可視化

■ 滞留空間について

- 所々で休憩される様子は見受けられたが、多様な利活用には至らなかった。
一方で、イベント時などの楽しめるコンテンツと組み合わせた場合には、多くの利用が見られた。

・ A,B,Cでは座具利用が見られた
・ C(東駅前公園)では宝探しイベントの参加者が座具をよく利用していた



座る、スマホ



座る、会話する(奥)
植栽を見る(手前)



電話、荷物整理



イベント時の様子



座る、宝探しの問題を解く



座る、周りを眺める

➡ 滞留空間は、楽しめるコンテンツとセットであると有効

社会実験の調査結果

[社会実験の目的 2]
沿道事業者等の機運醸成

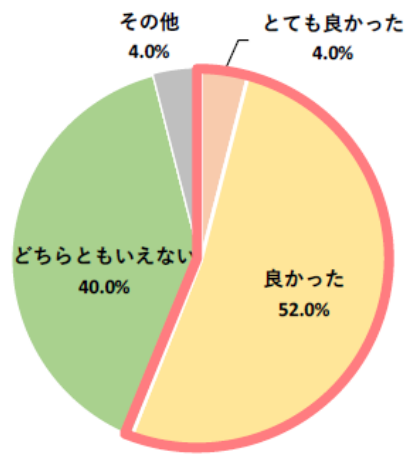
■ 沿道事業者等の機運醸成・連携について

- 82店舗と多くの沿道事業者の協力を得ることができ、連携によるメインストリート形成への足掛かりにすることができた。
- 一方で、1回の社会実験では沿道形成に対する機運が高まったとは言えず、積極的な参加希望は限定的であった。

社会実験に参加して、良かったか

- とても良かった：4.0%
- 良かった：52.0%

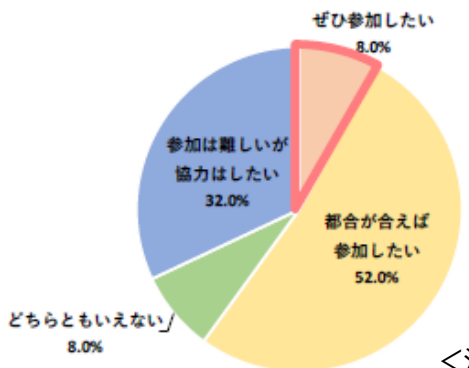
▶ 合計 56.0%が
好意的に受け止めている



今回の社会実験の結果をふまえ、市では引き継ぎ、沿道の皆さんと魅力的な沿道形成や活性化の取組みを話し合っていければと考えています。
そうした場に参加していきたいと思うか

- ぜひ参加したい：8.0%
- 都合が合えば参加したい：52.0%

▶ 積極的な参加意向は 8.0%



<沿道事業者アンケートより>

⇒ 沿道事業者等の主体性の後押しにつながる、継続的な機運醸成に向けた取組の検討が必要

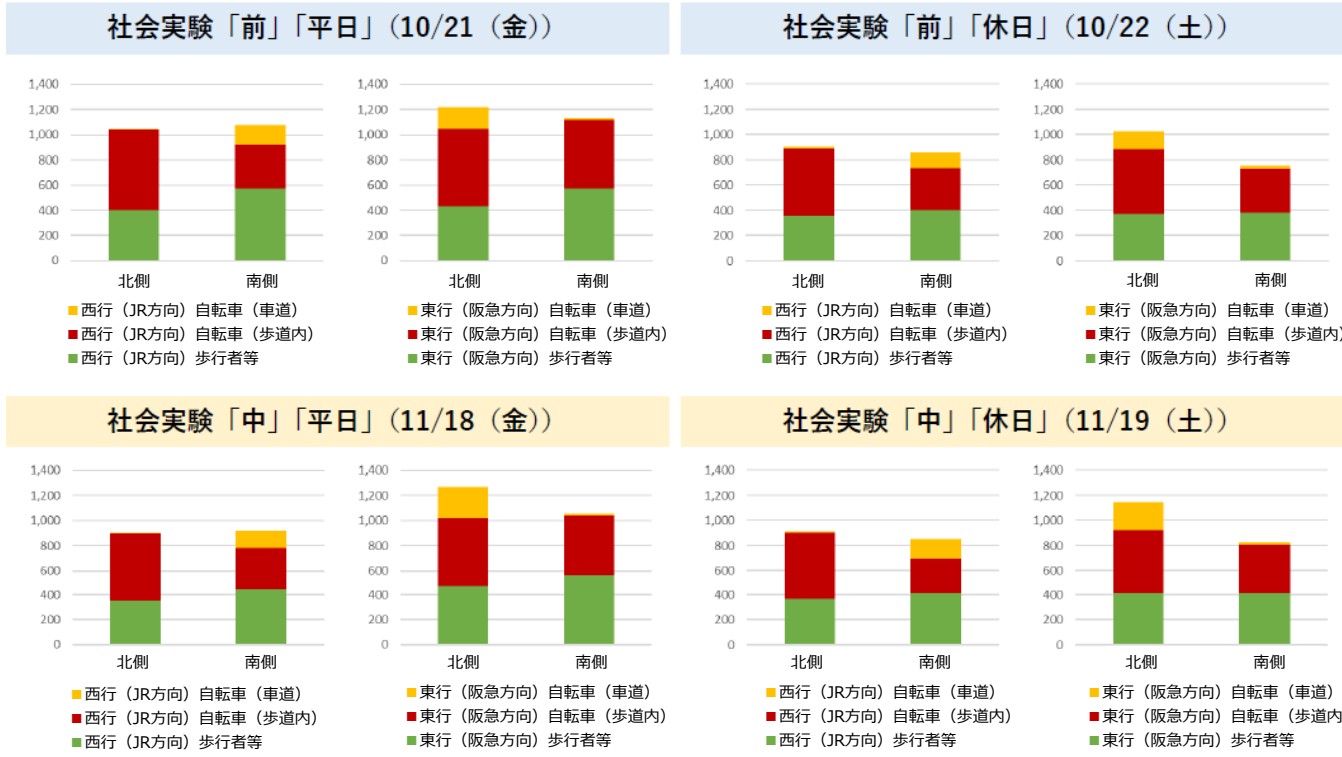
社会実験の調査結果

[社会実験の目的 3]
歩行者・自転車の通行の啓発

歩車分離に向けた通行の啓発について

- 誘導看板による啓発だけでは、歩道上を通る自転車の状況に変化は見られず、交通適正化の効果は薄い結果となった。
- 安全に通行できる環境整備を求める意見が多くあった。

●中央通り（柏木サイクル前） ※いずれも7：00～9：00、11：00～13：00、17：00～19：00の合計値



<通行状況調査より>

誘導看板

➡ 通行の安全面につながる整備（ゆとりある空間の確保など）の検討が必要

社会実験の結果（まとめ）

[社会実験の目的 1]

通りとしての将来像の可視化

- メインストリートの目指すべき方向性を確認、共有することができた。
- 魅力的な景観形成には、安全に「歩きやすい」環境の検討も重要な要素
- 滞留空間は、楽しめるコンテンツとセットであると有効

これらを踏まえたデザインの方向性や持続的な運用等を検討し、示すことが重要

[社会実験の目的 2]

沿道事業者等の機運醸成

沿道事業者等の主体性の後押しにつながる、継続的な機運醸成に向けた取組みの検討が必要

[社会実験の目的 3]

歩行者・自転車の通行の啓発

通行の安全面につながる整備（ゆとりある空間の確保など）の検討が必要

〈今後の対応〉

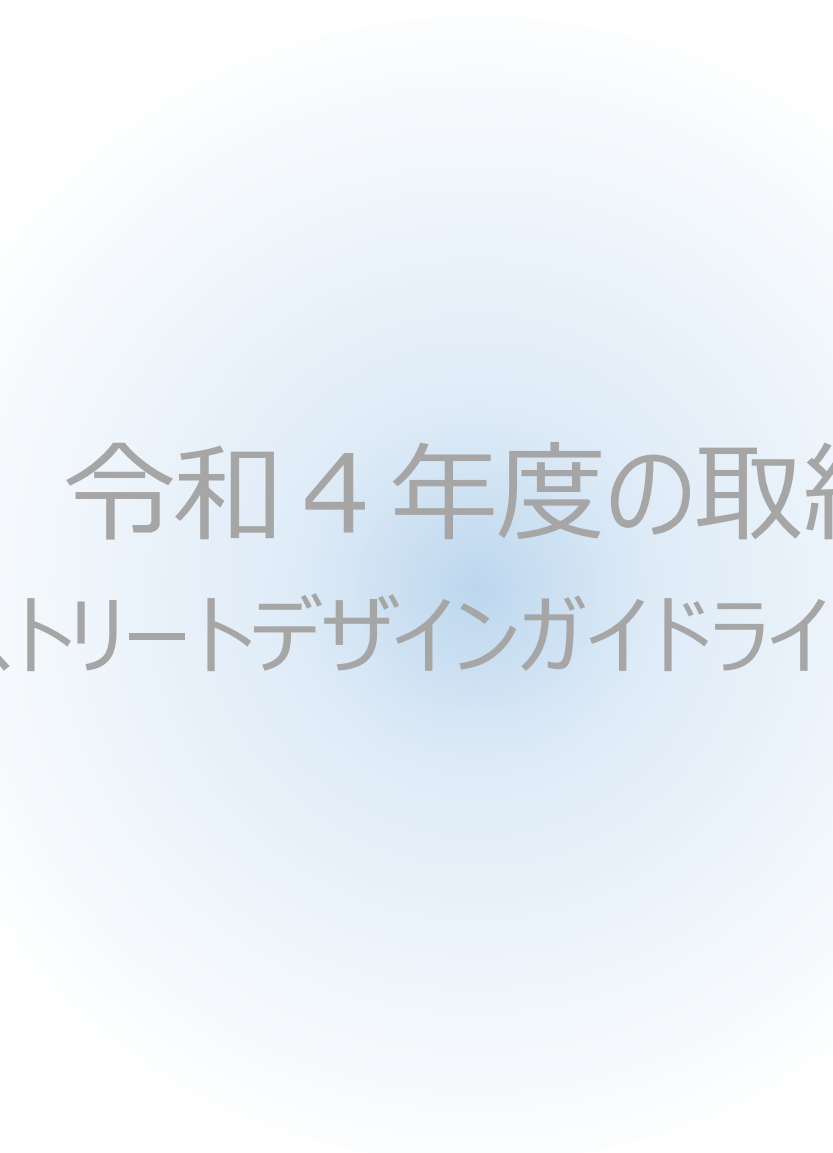
デザインガイドラインの検討

18ページ



将来像の実現に向けた実践

24ページ

- 
- 1 令和4年度 of 取組み
 - ② ストリートデザインガイドラインの検討

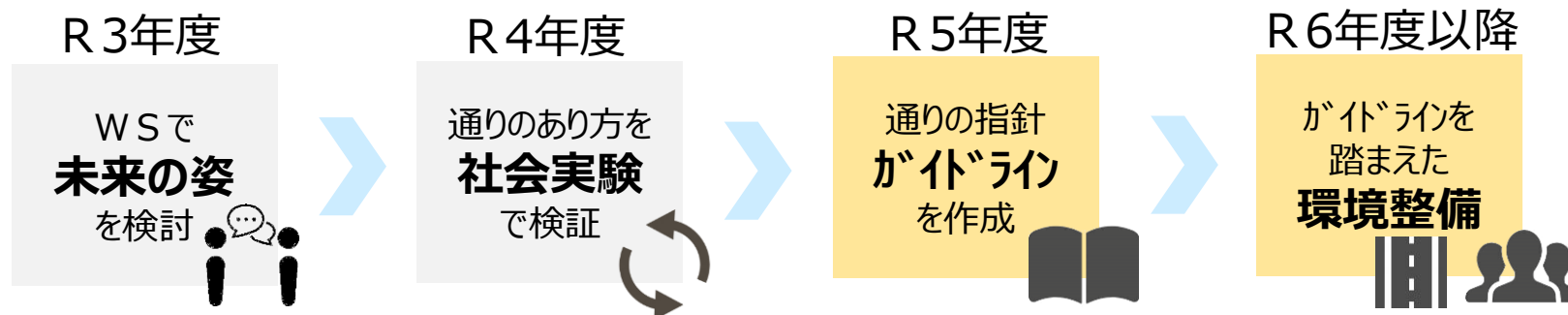
ストリートデザインガイドラインの検討

■ ストリートデザインガイドラインとは

- ・歩きやすく、歩きたくなる魅力的なメインストリートを官民が連携して実現するための指針
→令和6年度以降に、ガイドラインを踏まえた環境整備を想定
- ・検討にあたっては、有識者や道路・交通管理者等の意見を聴きながら、実施

[掲載内容] 道路空間と沿道空間における「デザインの方向性・方針等」

道路空間と沿道空間が交わる「共用空間の利活用を促進するための方針等」など



■ ガイドライン構成（素案）

- 1 はじめに**
背景、目的・位置づけ・目標時期 など
- 2 現況整理**
中心市街地のまちづくり、市民ニーズなど
- 3 ストリートデザインの基本的な考え方**
目指すべき将来コンセプト など
- 4 ストリートイメージを実現するためのデザイン指針**
各通りのストリートデザイン指針 など
 - ・道路空間（街路灯、舗装、街路樹、サインなど）
 - ・沿道空間（建築物の意匠・形態など）
- 5 ストリートイメージを実現するためのマネジメント指針**
共用空間の利活用に向けた取組み、実現に向けたロードマップ など

ストリートデザインガイドラインの検討

■ 法的担保（実効性の確保）

ガイドライン内容を景観計画へ反映することにより、景観法・条例に基づく実効性を確保

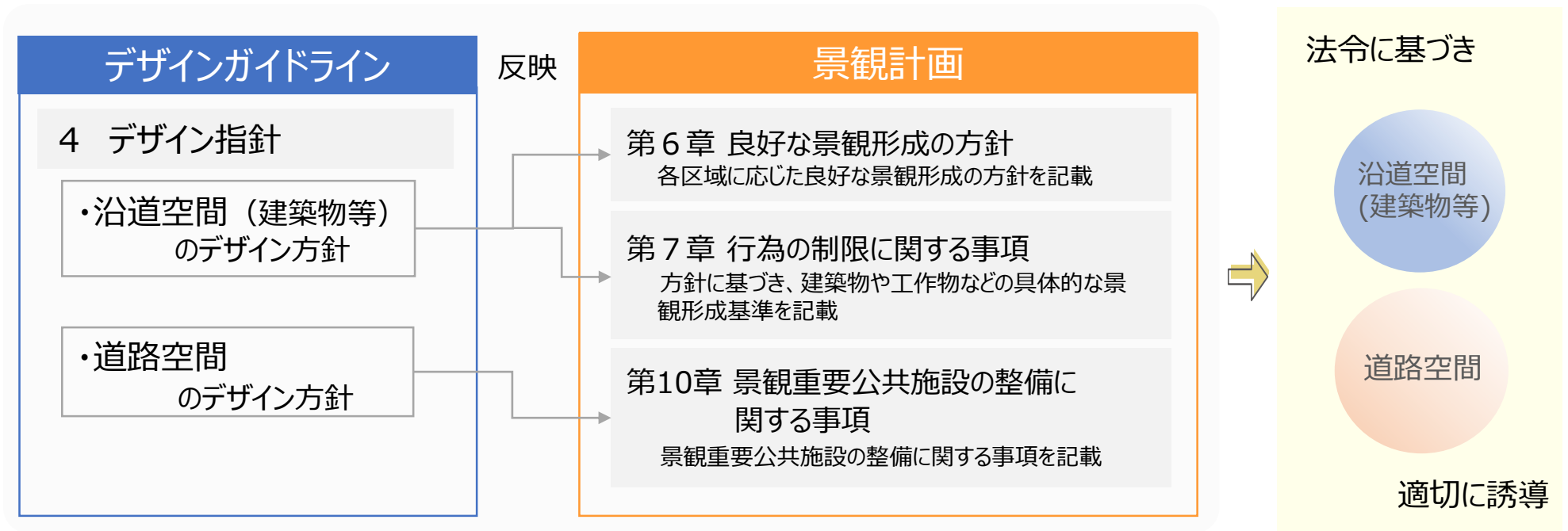
【沿道建築物等】

景観の事前協議や届出時において、適切に誘導する。

【道路】

メインストリートの整備・占用を行う際には、景観部局との事前協議を新たに実施し、適切に誘導する。

→景観部局との協議の仕組みは、今後検討する。（有識者の参画も視野に入れた検討を行う。）

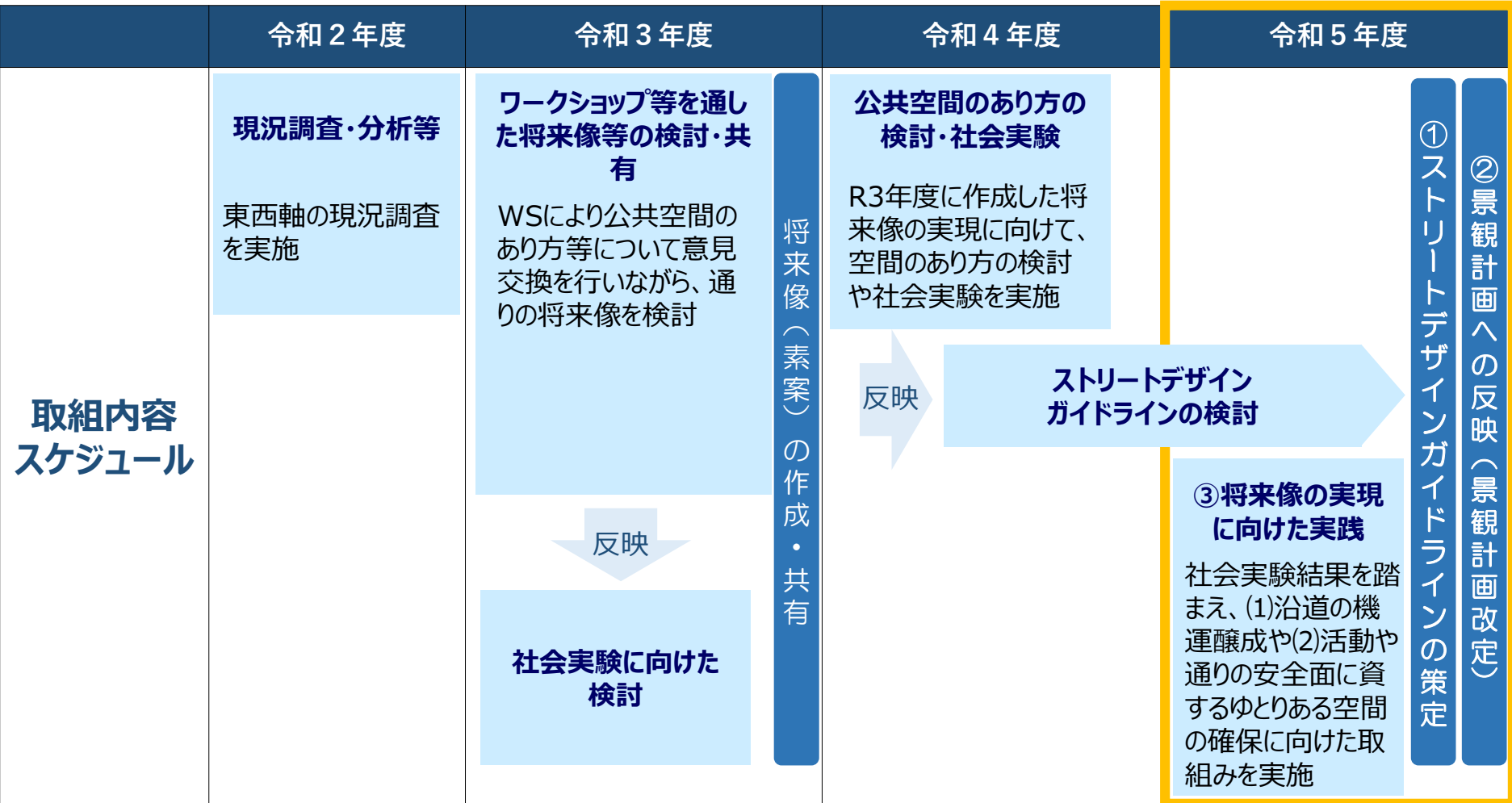


⇒ ガイドラインの内容は、別紙資料1-2「ストリートデザインガイドライン素案」にて

2 今後の取組み

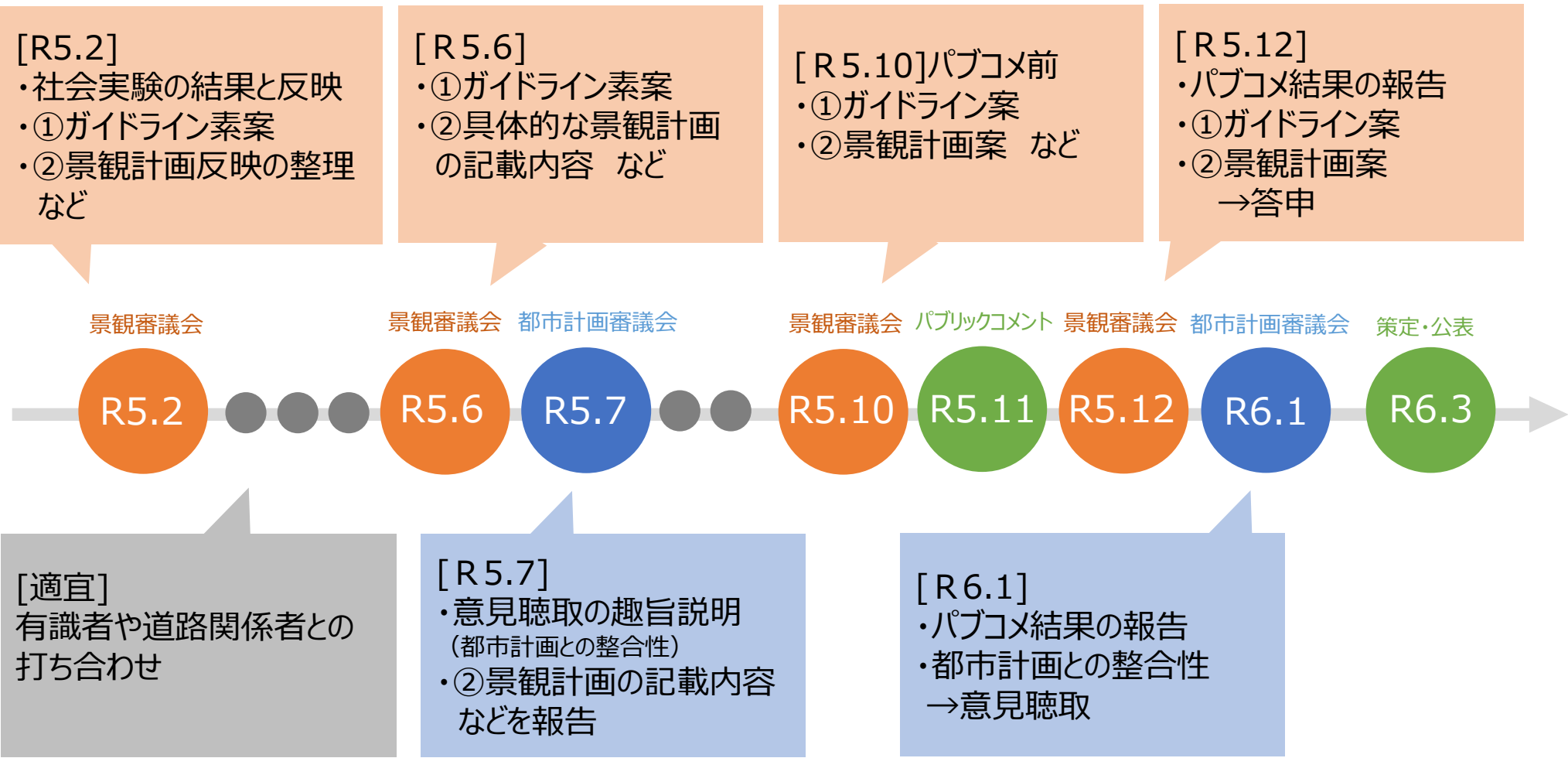
取組みスケジュール

■ 令和5年度は①ストリートデザインガイドラインの策定や②景観計画への反映に加えて、③将来像の実現に向けた実践を行う。



取組みの流れ (①ガイドラインの策定、②景観計画への反映)

■ ①ストリートデザインガイドラインの策定、②景観計画への反映に向けた取組みは、以下の流れを想定



取組み内容 (③将来像の実現に向けた実践)

■ 社会実験の検証結果を踏まえ、ガイドラインの策定に先んじて、将来像実現に向けた実践を実施する。

- (1)沿道事業者等との切れ目のない継続した機運醸成に向けた取組み
- (2)活動や通行の安全面に資するゆとりある空間の創出に向けた取組み

(1)沿道事業者等との切れ目のない 継続した機運醸成

活動が景色となる魅力的な沿道空間の形成を図るためには、事業者等の主体的な参画は不可欠であることから、主体性を後押しするような促進・支援の取組みを行う。

やる気のある人を発掘！

【取組内容(案)】

今秋「おにクル」の生誕を契機とし、沿道事業者等の主体的な取組を促進・支援を行う。

【話し合い】

おにクル生誕に合わせ「やりたい」想いを抽出。

【実践】

※主に民地
生誕時に「やりたい」想いを具現化。
※主は沿道事業者等

【振り返り】

実践の課題などをふりかえり、改善。次へとつなげる。

※ガイドラインへの意見聴取なども合わせて実施し、取組みへの総合的な理解促進を進める。

(2)活動や通行の安全面に資する ゆとりある空間の創出

活動の場の創出や歩車分離・歩行空間拡幅を望む意見への対応など、ゆとりある空間の実現に向けて「つかう→つくる」の視点を意識した取組みを行う。

【取組内容(案)】

期間限定で、側道（車道）部分において歩道拡幅後の空間活用の検討を行う。

【実施想定日】「おにクル」生誕に合わせて、2日程度

【場所】中央通り、JR側道部分

【内容】将来像の実現に向け、歩行者・自転車の通行分離による安全確保及び左記取組みの実践の場として将来の空間活用の検討を行う。

